

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

エンパワメントスクール(ES)としての役割を十分に果たしつつ、成城高校独自の強みを活かし、自律し自立することで社会貢献できる人材を育成する学校

- 学びを大切に、基礎基本の学力充実と夢実現の発展的学力の養成。
- 規範意識を身に着け、自己と他者を大切にできる人間育成と安心で安全な学校。
- 自己有用感に満ち、社会貢献できる知識とスキルの習得。

2 中期的目標

1 成城高校がめざす ES としての成果をあげるための取り組み

(1) ES の基本である学び直し学習を着実に、発展的学力や知識習得ための取り組み

ア 研究プロジェクトを立ち上げ、「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、大学の研究者との連携を図り研修を重ねつつ、公開授業や研究授業を積極的に行い、学習効果をあげるための工夫を行う。

* 「わかる授業」「楽しい授業」を実現し、生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（平成 28 年度は 59.1%）を引き上げ、29 年度は 70%、31 年に 80%にする。

* 1 年生の年度末学力調査で、平均点 75 点以上とする。（平成 28 年度は 71.8 点）

イ ICT を活用した学びの充実

* 全普通教室にホワイトボードを設置したことで「電子黒板の一層の有効活用」を研究しさらに進める。また「タブレット端末の活用」を強力に進めることで、居眠り防止等授業への集中度を高める。

* 座学での ICT 活用実施者割合を平成 29 年度は 50%とし平成 31 年度は 70%を達成する。

2 高い規範意識で自分と他人を大切に、安全・安心で充実した学校生活の送れる学校作り

(1) いじめられ経験や不登校経験をもつ生徒への対応

ア 支援コーディネータを核とした支援委員会と、SC 及び担任団を中心としたサポートチームの強化

イ いかなるいじめも許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた生徒指導

* 中学校以前に不登校・いじめられ経験をもつ新入生の登校改善維持(平成 28 年度入学生は 90%が改善)

(2) 生徒が充実した高校生活を送るための取り組み強化

ア 学校生活を大切にさせるための取り組み強化

* 平成 31 年度保護者対象学校教育自己診断での「学校に対する満足度」を 90%にする。（平成 28 年度は 84%）。

* 平成 31 年度生徒対象学校教育自己診断で、成城高校に「入学してよかったと思う」回答を 85%にする。（平成 28 年度は 62%）

* 総遅刻回数・欠席日数とも前年比各 10%減を達成する。

* 規律違反指導数を平成 31 年度まで毎年 10%減少させる（平成 28 年度は 27 年度比較で増減なし）

* 中退率維持（平成 28 年度は 0.5%）

イ 部活動の活性化

* 平成 31 年度、部活動加入率全体 70%、1 年生 80%にする。（平成 28 年度全体 62%）

ウ 学校環境の整備

3 進路保障

(1) 基礎学力を身に着け、発展的学力を充実させる。

ア 公開授業・研究協議の維持

* 授業公開 30 講座、校内授業見学 100 講座を目標とし、3 年後の達成をめざす。

* 教育産業が実施する学力診断テスト用い生徒の学力を定点観測し学力向上をはかる。評価指標である D 3 の割合を平成 29 年度は 10%減をめざし平成 31 年度は半減を目標とする。

イ 「主体的・対話的で深い学び」の探求・実践・充実

* 平成 31 年度生徒対象学校教育自己診断で「授業が充実している」回答 80%とする。（平成 28 年度は 59%）

(2) 希望進路の実現をめざし、高いモチベーションを維持するための取り組み

ア 進路指導部主導型の進路指導体制を構築し、卒業時進路未決定者 0（ゼロ）実現

* 進路未決定卒業生率を平成 29 年度以降減少させゼロをめざす。（平成 28 年度は 3 月 14 日現在 1.6%）

イ 社会で役立つ資格等を取得するための取り組みと、進学に向けた英語、数学、国語の進学講習の充実。

* 平成 31 年度、実用英語検定 2 級 2 名、準 2 級 20 名、3 級 50 名、合計 72 名以上合格をめざす。

（平成 28 年度は 2 級 1 名、準 2 級 8 名、3 級 42 名、合計 51 名）

* 平成 31 年度の資格取得者・検定試験合格者を 530 名にする。（平成 28 年度はのべ 514 名）

4 地域に根差し見守られ、地域に貢献できる学校づくり

(1) 平成 29 年度入学者選抜志願者確保

ア 「チーム成城」での組織的な情報発信

* 中学校訪問 150 校実施を組織的に取り組み強化し、それを維持する。（平成 28 年 152 校）

* 中学 2・3 年生徒・保護者・中学校教員等を 6 回開催し、計 800 名の参加を集める。

（平成 28 年度は生徒・保護者向け 7 回計約 877 名、中学校教員向け等 2 回合計 56 名参加）

* 平成 29 年度入試入学者の第一志望での入学者数をアンケート調査実施。平成 31 年度までに 95%以上を達成する。

イ 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり

* 文化祭・体育祭に合わせて 1000 名以上の来場者を維持する。（平成 28 年度は 1030 名）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 成城高校がめざすESとしての成果をあげるための取り組み	<p>(1) ESの基本である学び直し学習を着実に進め、発展的学力や知識習得のための取組み</p> <p>ア、授業力向上研修と初任者の教師力向上の実施。</p> <p>イ ICTを活用した学びの充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教頭・首席が中心となり、授業力向上と初任者育成を主たる目的とした組織を立ち上げ授業改革研修の企画、立案、実施を計画的に研修を行う。 ・5系列が、独自で生徒の学習習慣を定着させるための取り組みを工夫する。 ・初任者を中心とした授業公開を、企画・実施し、研究協議を充実させ授業力向上を図る。 ・初任者の教科指導員と協力し、初任者相互の授業観察を積極的に行う。 <p>イ・新しい取り組みを積極的に取り入れ、生徒の学ぶ意欲を充実させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わかる授業」「楽しい授業」を実現し、生徒向け学校教育自己診断における授業満足度を29年度は70%に引き上げる。 (平成28年度は59.1%) ・宿題の提出率90%以上をめざす。 ・1年生の年度末学力調査で、平均点75点以上とする。 (平成28年度は71.8点) ・授業見学振り返り用紙提出数目標100枚とする。 ・ユニットミーティングを月一回実施する。 <p>イ・生徒向け学校教育自己診断において「授業などでコンピューターやプロジェクターを活用している」の項目の満足度を85%にする。(平成28年度は77.8%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用実施者を平成29年度は80%とする。 	

<p>2 高い規範意識で自分と他人を大切にし、安全・安心で充実した学校生活の送れる学校作り</p>	<p>(1) いじめられ経験や不登校経験をもつ生徒への対応の充実 ア 支援コーディネータを核とした支援委員会と、SC 及び担任団を中心としたサポートチームの強化 イ いかなるいじめも許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた生徒指導</p> <p>(2) 生徒が充実した高校生活を送るための取り組み強化 ア 学校生活を大切にさせるための取組み強化</p> <p>イ 部活動の活性化</p> <p>ウ 学校環境の整備</p>	<p>(1) ア 組織的対応に欠かせない情報共有のため職員会議には近々の事案・事象の報告を行う イ・式辞及び生徒集会等において常に学校の姿勢を訴えていく。 ・いじめアンケートを必要に応じて随時行い情報収集に努める。</p> <p>(2) ア・教頭、首席が中心となり初任者対象を中心とした、教師力向上研修を継続実施 ・初任者育成プロジェクトで研修を重ね、カウンセリング力を高める</p> <p>・遅刻防止、欠席防止指導の改善</p> <p>・アルバイトの制限維持</p> <p>イ・生徒会が中心となった部活動活性化活動</p> <p>ウ・「ゴミの落ちていない学校」を継続するため校長による巡回と教員への徹底指導継続 ・生徒の自己有用感を持たせるため、教員自らが積極的に感謝の気持ちを表すことに努める。 ・3F 普通教室の壁の塗り替え実施。</p>	<p>(1) ア・いじめが起因する不登校ゼロをめざす。 イ・中学校以前に不登校・いじめられた経験をもつ入学生の登校改善維持 (平成 28 年度入学生は 90%が改善) ・学校教育自己診断における「先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」を平成 29 年度 75%とする。 (平成 28 年度は 69.5%)</p> <p>(2) ア・中退率の維持 (平成 28 年度は 0.5%) ・停学人数 10%減(平成 28 年度は前年度より増減なし)と総停学日数 10%減を達成する。 ・総遅刻回数・欠席日数とも前年比各 10%減を達成する。 (h28 年遅刻 2785 回、欠席 3950 日)</p> <p>・届け出を義務付け、担任がその状況を把握し適切指導に役立てる。</p> <p>・「成城に入学してよかった」の項目を平成 29 年度は 70%にする。(h28 62%)</p> <p>・平成 29 年度保護者対象学校教育自己診断での「学校に対する満足度」を 90%にする。(h28 84%)</p> <p>イ・全学年生徒対象部活動紹介を継続実施する。 (全員体験入部 2 日) 1 年生の部活動加入率 80%を実現する。</p> <p>ウ 学校教育自己診断の生徒項目に「校内美化に努めている」を追加し、肯定的回答 80%をめざす。</p>	
---	--	--	--	--

<p>3 進路保障</p>	<p>(1) 基礎学力を身に 着け、発展的学力を 充実させる取り組 み。 ア公開授業・研究協 議を充実させた授業 改善。</p> <p>イ「主体的・対話的 で深い学び」の探 求・実践・充実</p> <p>(2) 希望進路の実現 をめざし、高いモチ ベーションを維持す るための取り組み ア進路指導部主導型 の進路指導体制構築</p> <p>イ社会で役立つ資格 等を取得するための 取り組みと、進学に 向けた英語、数学、 国語の進学講習の充 実。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 研究授業、公開授業、授業見学を計画的・ 組織的に実施。</p> <p>・教育産業が実施する学力診断テストを継続 し、生徒の学力を定点観測し、生徒のモチベ ーションを上げるとともに、教員のスキルア ップの材料とする。</p> <p>イ・大学と連携を図り「主体的・対話的で深 い学び」の校内研修を実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・計画的な進路指導と、保護者懇談等を通じて の情報提供を積極的に行う。</p> <p>・大学・短大進学、就職・公務員・専門学校、 看護医療の4つの係に担当を明確化し、学年 団への指導と進路希望別に生徒への直接指導 を行う。</p> <p>イ・積極的に実用英語検定を受験させる。(1年 生は全員必須) またそのための学習の機会を 設ける。 ・生徒・保護者への周知・指導強化</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己 診断における授業満足度(平 成28年度は59.1%)を29年 度は70%に引き上げ、31年 に80%にする。</p> <p>・学力判定指標D3の割合を 10%下げる。 (平成28年度は38%)</p> <p>イ・職員研修参加率95%を 実現する ・平成31年度生徒対象学 校教育自己診断で「授業が充 実している」回答80%とす る。 (平成28年度は59%)</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断にお ける「学校は将来の進路や職 業について、適切な指導を行 っている。」について平成29 年度は90%を目標とする。 (h28 85.1%)</p> <p>・卒業時進路未決定者0(ゼ ロ)実現</p> <p>イ・平成29年度は実用英語検 定準2級10名3級40名を 実現 ・資格取得者・検定試験合 格者を500名にする。(平成 28年度はのべ514名)</p>	
-------------------	--	--	---	--

<p>4 地域に根差し見守られ、地域に貢献できる学校づくり</p>	<p>(1) 平成 29 年度入学者選抜志願者確保</p> <p>ア 「チーム成城」での組織的な情報発信</p> <p>イ 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「チーム成城」での組織的な情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問を維持し、本校の実践内容を広く知ってもらう。 ・学校説明会や地域における説明会への管理職を中心に組織的に取り組み、経験の浅い教員にも経験を積ませる。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の諸機関・事業所との交流・連携 ・文化祭・体育祭の地域等への門戸開放を一層進める。 	<p>(1)</p> <p>ア ・中学校訪問 150 校実施を組織的に取り組み、強化しそれを維持する。 (平成 28 年 152 校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学 2・3 年生徒・保護者・中学校教員等を 6 回開催し、計 800 名の参加を集める。(平成 28 年度は生徒・保護者向け 7 回約 877 名、中学校教員向け等 2 回合計 56 名参加) ・平成 29 年度入試入学者の第一志望での入学者数をアンケート調査実施。80%をめざす イ ・首席を中心とした広報活動の充実。(HP に実施工事を 2 日以内にアップする。) ・地域の祭り、自治体の催し物への積極的参加。 (平成 28 年度は吹奏楽部が参加) ・文化祭・体育祭に合わせて 1000 名以上の来場者を迎える。(平成 28 年度は 1030 名) 	
---------------------------------------	---	---	--	--